

## 『歴史を支配する神』 エレミヤ書30章3～22節 2015.6.14(主日礼拝説教より)

『…見よ。わたしはヤコブの天幕の繁栄を元どおりにし、その住まいをあわれもう。町はその廃墟の上に建て直され、宮殿は、その定められている所に建つ。彼らの中から、感謝と、喜び笑う声がわき出る。…』 エレミヤ書 30:18～19

◆エレミヤ書には、歴史を支配する神の計画が啓示されている。神が『…必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる(イザヤ 55:11)。』と語られる時、うかうか聞いてはならない！『見よ。その日が来る。…その日、わたしは、わたしの民イスラエルとユダの繁栄を元どおりにする…(エレミヤ 30:3)』。『見よ(3,10,18 節…)』とは、絶対的な権威をもって人類の歴史に介入される神の宣言。その内容は、エレミヤが預言者として立つ 100 年以上も前に滅びた北王国イスラエルも含めた全イスラエルの回復宣言だった！『失われた 10 部族』の末裔は、世界中に散らされて未だに行方知れず…。しかし約 1900 年以上の時を超えて、全世界、地の果てからユダヤ民族を集めてイスラエル共和国を再建された神は、『その日』を必ず実現される！

◆『私たちは神の民となり、この神が私たちの神となる(22節)』ために神は、『その権力者は、彼らのうちのひとり、その支配者はその中から出る。わたしは彼を近づけ、彼はわたしに近づく。わたしに近づくために命をかける者…(21節)』を遣わすと言われる。『その日』、私たちを神に近づけるために、命を捨てる救い主…十字架で命を捨てられたイエス・キリスト…が来られた。神の恵みの支配はイスラエルの救いの歴史に、また信じる者の心の中に現わされる。

◆私たちの心の王座に就こうとする者が3者ある。神と悪魔と自分自身。自分が座れば罪に汚れたままの自己中心人生で、神から離れてしまう！悪魔が座れば、世の楽しみに満たされ、世の欲に惑わされて、ついには滅びへ道連れとなり、闇へ引きずり込まれていく！真の神に心を明け渡して、心の王座に座っていただく時こそ、人は本当の神からの平安と神の愛に包まれる。◆大嵐で沈没するのではないかという恐ろしい恐怖の中、主は、その圧倒的な支配を信じるようにと、弟子たちを戒めた(『信仰がないのはどうしたのか！(マルコ 4:40)』)。主は、人生の旅路が大荒れの時、真っ暗闇で、どの道を歩んだら良いか、全く見えず、将来の不安と心配で押しつぶされそうになるとき、御声を響かせてくださる『向こう岸(御国)に渡ろう(マルコ 4:35)』と。嵐の中、このお方の恵みの支配をあなたは信じられるか？勿論、私たちもあの嵐の中でパニックした弟子たちのように、主の名を呼べばいい『わたしを呼べ。そうすればわたしはあなたに答え(エレミヤ33:3)』てくださるのだから！)。しかし、どこかで、完全に委ねて、あなたの人生を恵みで完全に支配し、導かれるお方を、絶対的に信頼して、あらゆる境遇で神を信頼し、安心して日々の自分の務めに励む者へと成長したい！